長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 馬場 隆
購読料一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

中四九ブロ青年教職員学習交流集会

学び合って 語り合って 一緒に呑んで みんな元気をもらいました

全教中国・四国・九州ブロックの青年教職員学習交流集会が、12月8～9日に長崎市の「矢太楼」で開催されました。長崎高教組青年部は、6月、8月、9月、11月の計4回の準備会議を開催し、青年部役員を中心に準備を進めてきました。当日は、県内から10人、県外から25人の参加があり、「長崎高教組の青年部が復活した」ことを印象付けるような充実した集会となりました。

1日目

記念講演

最初に記念講演として、活水高校や大学で「平和学」の講師を務めておられる山口響さんに『?』を生み出す教室・学校へ」と題して、ワークショップ形式の講演をしてもらいました。内容は、その後行われる3つの分科会や授業での実践を意識した2つのテーマで行われました。

前半は、「児童、生徒の『主体性』とは?」というテーマで講演、続いて授業の場面を想定して、「生徒がどのような場面な状態にあれば、『主体的・能動的』であるとみなすか」ということをグループで話し合いました。その後、グループ別の発表と講師によるまとめが行われました。なかなか答えの出ない問題を話し合うことが難しかったようです。

後半は、『ラブ&ピース』を越える平和学習」というテーマで、3人の戦争に関する意見を読み、意見の違う人に対して、どう相手を納得させるか考える学習でした。

「『いろいろ意見はあるけれどみんな仲良くすればいいんじゃん』のような『ラブ&ピース』で物事が解決するならば苦労はいらない」と話され、相手の立場に寄り添いながら説得することの大切さを学びました。

2つのテーマを通して、参加者はアクティブ・ラーニングの実践を体験することができました。最後に講師から、望むべき「主体性」とは、「学校外で実践できる」、「自ら問いを立てることができる能力」というまとめがありました。

上：山口さんの講演　下：グループ討議

分科会

記念講演の後は、3つの分科会に分かれて、それぞれの分科会で、長崎高教組青年部の役員がレポートを報告し、参加者みんなで意見交換を行いました。

【分科会Ⅰ】

分科会Ⅰでは講演者の山口響さんをオブザーバに迎えて「平和学について」考えました。参加者は校種も多様な11人でした。

最初に長崎工業の砂田先生より長崎工業の平和学習のとりくみについて紹介がありました。長崎工業では昨年より自校の被爆の状態について学んでいます。生徒の代表者たちがその被爆遺構を訪ねたり、被爆体験記では美術部が挿絵・読み上げを放送部が行うなどしていることが紹介されました。その後は各県、各校での平和学習について紹介しました。

【分科会Ⅱ】

分科会Ⅱは、平戸高校の片山先生実践例について説明があり、14人の参加者がありました。地域の特色をふまえた上で、学力にかなりの幅がある際の具体的な指導法の中で、「先読み授業」についての報告がありました。

「理解できた、わかった」感を全員に達成してもらうことを目標の一つとし、授業改善も継続しているとのことでした。

説明のあとは校種をこえて、質疑応答でも活発な意見交換がなされ、片山先生の授業における。ユーチューブ活用への質問や小学校の先生からは、週一度「わかった」教室を通じて自己の課題に対する取り組みを認める指導の紹介が出されるなど盛り上がり、時間ギリギリまで続きました。

【分科会Ⅲ】

分科会Ⅲは、小中学生の作文指導、高校生の小論文指導の実践を持ち寄って、小学校から高校までの長期的な指導の視点から考える分科会となりました。参加者は7人でした。

最初に大村高校の渋谷先生より、小論文・作文の書き方について実践報告がありました。苦手意識を持っている生徒が多いため、3年生になる前に取り組ませるようになったそうです。KP法(紙芝居プレゼンテーション)を活用し、黒板に貼付して可視化することで、小論文の材料を与え、生徒に書きやすい状況を作る方法も紹介されました。

山口県の先生からは特別支援学校での作文指導の取り組みが紹介されました。手作りの保護者向けの作文集を作られ、3人のクラスの生徒がもっと書きたいという仕組みづくりを行っておられました。

上から　分科会Ⅰ、
分科会Ⅱ、分科会Ⅲ

【参加者の感想より】

○実際に話し合う時間が設けられ、他県で校種も違う様々な先生方と意見を交換できてよかった。話し合い活動を行った際の先生方の反応もよく、山口先生の総括も納得できるものだった。

○初対面の方々との討論は緊張しましたが、一つの資料の見方が人それぞれであることを実感しました。機会があれば、今回の平和学習の内容を勤務校で実践したいと思いました

夕食交流会

夜の夕食交流会は、各県のお酒も持ち込まれ、大いに盛り上がり県外の先生方とも交流を深めることができました。

参加者から「皆さんと仲良くなれて嬉しかった です。最初は、別の県の方と同じ席ということで、緊張すると思っていましたが、皆さんがあたたかかったので、新たな交流が広がって、とても楽しかったです」「交流会

2日目

フィールドワーク

2日目は、2つのコースに分かれてフィールドワークを行いました。

【被爆遺構めぐり】

鳴滝高校の烏山先生のガイドにより、原爆資料館、平和公園、浦上天主堂を訪問しました。多くの先生方が一度訪問したことがあるそうですが、説明を受けながら聞くと、「より理解が深まった」との意見がありました。他県では平和教育はあまり活発な状況ではないとのことでありますが、参加された先生方からは「原爆の悲惨な状況を後世に伝えていかなければならない。」などの意見が出されていました。参加者は9人でした。

交流会での長崎高教組の参加者紹介

【鎖国時代の町歩き】

今泉副委員長がガイドを担当し、長崎駅から「長崎」の名前となった「長い岬」の崖下を歩き、史跡「出島」、新地蔵跡（中華街）、唐人屋敷跡など、歴史の教科書に登場する鎖国時代の長崎を巡りました。参加者は22人でした。

最後に、この交流集会全体に対する県外からの参加者の感想の一部を紹介します。

「一生懸命用意してくださったのだと感じました。行って良かったです。みんな元気をもらって帰ることができました。ありがとうございました」

教育全国署名 432万4595筆を集約

12・7国会議員要請行動&全国署名集約集会

「2018年度(第30回)ゆきとどいた教育を求める国会議員要請行動・全国署名集約集会」は、12月7日に東京で行われ、長崎高教組から鍛治委員長が参加しました。

まず、参議院議員会館で意思統一集会が行われました。主催者あいさつ、国会情勢報告、地方組織のとりくみ報告、行動提起と会は進みましたが、その中で、長時間労働の削減には同意しながら、教職員定数の抜本的改善につながる政策には全く触れなかった文部科学省の姿勢に批判の声があげられました。終了後、議員会館に移動し、長崎県選出の国会議員7人に対して、教育全国署名請願の紹介議員になってほしいとお願いする要請行動にとりくみました。残念ながら議員本人に合うことはできず、秘書の方々に依頼しました。

午後からは全国署名集約集会が行われました。基調報告では「これまでの30年間で4億5000万筆を超える署名が積み上げられ、35人学級をはじめ教育条件整備に大きな役割を果たしてきたばかりでなく、『教育費の無償化』を全政党に公約に掲げさせるところまできた」などの報告がなされ、それに続いて全国のとりくみが紹介されました。

集会で発言する私学の高校生

今年度も印象に残ったのは、私学の高校生のとりくみです。「友人が学費を納めることができずに学校をやめていった。そうした人を一人でも少なくすることができたらと、私も署名活動にとりくんでいます」という報告や、『国民の税金で学校に行けているんだから、それに感謝すべきで、それ以上のものを求めるべきではない』と言った国会議員がいましたが、『あなたがたの歳費も国民の税金でしょ。それに見合った活動をやっているの?』と反論したかった」といった報告には暖かい拍手が送られていました。

各都道府県のとりくみ紹介の最後に今年度の全国の署名数が432万4595筆であったことが報告されました。県によっては集約の途中であるとのことで、2月の国会提出に向けてさらに署名を積み上げる決意が語られて、集会は終了しました。長崎県でも目標の1万筆を突破するよう、来年度こそがんばりましょう。

教組共闘九州ブロック学習交流集会

小中も含めて九州の仲間と学び合い 交流を深める

11月23～24日、大分県日田市で開催された教組共闘学習交流集会に参加しました。参加者は小田誠さん(長崎西)、渋谷雪絵さん(大村)、末永涼子さん(島原翔南)と本部寺田書記次長の4人でした。

【記念講演】

全教顧問の蟹沢昭三さんが「教職員の困難を打開し、子どもと教職員に希望ある未来を」と講演しました。蟹沢さんは、まず今回の改訂学習指導要領の問題点として、カリキュラム・マネジメントをとりあげました。これは、教職員を縛り上げ、上意下達のPDCAサイクルで達成していくことを求めるもので、校長が示す目標達成に向けて教職員が協働して実践することが求められ、それに基づいて「成果」が評価され、人事・処遇に反映するという図式だと、教職員の自主性と創造性を軽視する動きがいっそう強められる危険があると警鐘を鳴らしました。

次に「教職員の異常な長時間労働の蔓延」の問題をとりあげ、長時間労働の原因が、全国学テや自治体独自の学テ、土曜授業、教員免許更新講習、学校評価、教員評価、行政研修等、国と自治体が新たな業務を持ち込み、業務を増やし続けたことと、教職員の長時間労働問題は、子どもの教育に密接に関わっている問題であるという視点が肝要としました。

【現地・日田からの報告】

記念講演に続いて、現地・日田から「日出生台から平和なくらしを考える」と題して、浦田龍次さん(ローカルネット大分日出生台事務局長)が、米軍の日出生台演習場の現況を報告しました。日出生台での演習は95年から開始され、沖縄から全国5か所に移ったひとつです。浦田さんは99年から、演習上を見下ろせる場所にプレハブ小屋を建て監視活動を続けています。10年2月3日の米軍の一白燐弾」(着地前に数十個に分裂、それぞれが2500度程度の高温をだす)使用をスクープしました。

沖縄の普天間基地に接している普天間第二小学校の実情も踏まえ、「人間らしく生きる権利(25条)」がこの国ではいかに軽視されているかを話しました。

この後、分科会と夜の懇親会で、各県からの参加者と親睦を深めました。

【参加者の感想】

分科会で小学校のレポートを聞き、児童達がお互いに認め合う機会を多く設け、自己肯定感(あるいは学級肯定感)を育むという興味深い実践を学ぶことができました。中でも印象的だったのは、帰りのSHRでの「褒めタイム」で、一人の児童のよい部分を全員が挙手して言い合うという素敵な企画を毎日なさっているそうです。児童がお互いによいところを認め合う機会にもなり、その内容を学級通信で毎日配信することで保護者の方と児童とのコミュニケーションを取る機会にもなっているということを聞き、目から鱗でした。新しい実践や考え方を学べて、また久しぶりに校外に出て羽を伸ばすこともできて、とても自分の勉強になる学習交流会でした。(渋谷・大村)

県議会文教厚生委員会

「ゆきとどいた教育を求める請願」を採択せず

今年の署名(県議会宛)集約数は3388筆

長崎高教組は、今年度も「長崎のゆたかな高校教育をめざす会」(以下、「めざす会」)の事務局として、長崎私教連等と連帯しながら署名などにとりくみました。組織内では、署名数目標を1万筆としてとりくみをすすめましたが、最終的に集約した結果、国3,440筆、県3,388筆(昨年度:国5,058筆、県5,041筆)の署名が44分会から集まりました。分会員のみなさん、奮闘お疲れさまでした。

「めざす会」は、11月30日に、署名に記載した内容で、「ゆきとどいた教育を求める請願」を県議会に提出しました。事前に各会派に紹介議員になってもらいたいと要請活動を行いましたが、結局、紹介議員は堀江ひとみ県議1人でした。集約された3,388筆の署名は、12月11日に行われた県議会文教厚生委員会での審議の際に提出しました。、

委員会審議での討論参加は1人だけ

委員会の審議では、まず堀江県議が、紹介議員として趣旨説明を行い、続けて高教組が、35人以下学級の必要性、抜本的な教職員定数改善の必要性、特別支援学校の「設置基準」の制定、給付奨学金制度の拡充、県費によるエアコンの設置など、請願の趣旨説明を行いました。続いて質疑に移りましたが、質疑はなく、すぐに討論となりました。討論で発言したのは、自民党の委員ただ1人でした。「反対の立場から発言する」と述べたうえで、請願項目の一つ一つについて反対理由を挙げていきましたが、明らかに、前もって県教委に問い合わせて得られた回答を基にして述べていると思われるものでした。というのも、昨年の請願で県教委が委員の質問に答えた内容と同じだったからです。例えば、35人学級については「すでに小学校の94%、中学校の83%で実質35人学級となっているので、現状で十分」、教職員定数改善については「以前から国に要望している」という反対理由でした。エアコンの設置については「県の財政が厳しい折、PTAでお願いしたい」との内容で、受益者負担の立場を取るものでした。話し方も、準備した文章を機械的に読み上げる口調でした。続いて採決に移りましたが、堀江県議が賛成しただけで請願は不採択となりました。

請願終了後、傍聴していた新婦人の会の方が「機械的な話し方で頭にくる。もう少し同調するような話し方ができないのか」と怒りをあらわにしていましたが、全く同じ気持ちでした。今回の審議でも、「教育県長崎」は教育にお金をかけようとしない姿勢が明らかとなりました。各学校の事務室はこんな中で皆さんの要求に対応していることを、ぜひ知っていただきたいものです。これまでの請願の中で、もっとも中身の薄い審議内容でした。